副会長報告

科学と社会に関する活動報告

2019年10月～2020年6月の活動を中心に

2020年6月30日

「政府・社会・国民との関係」担当副会長

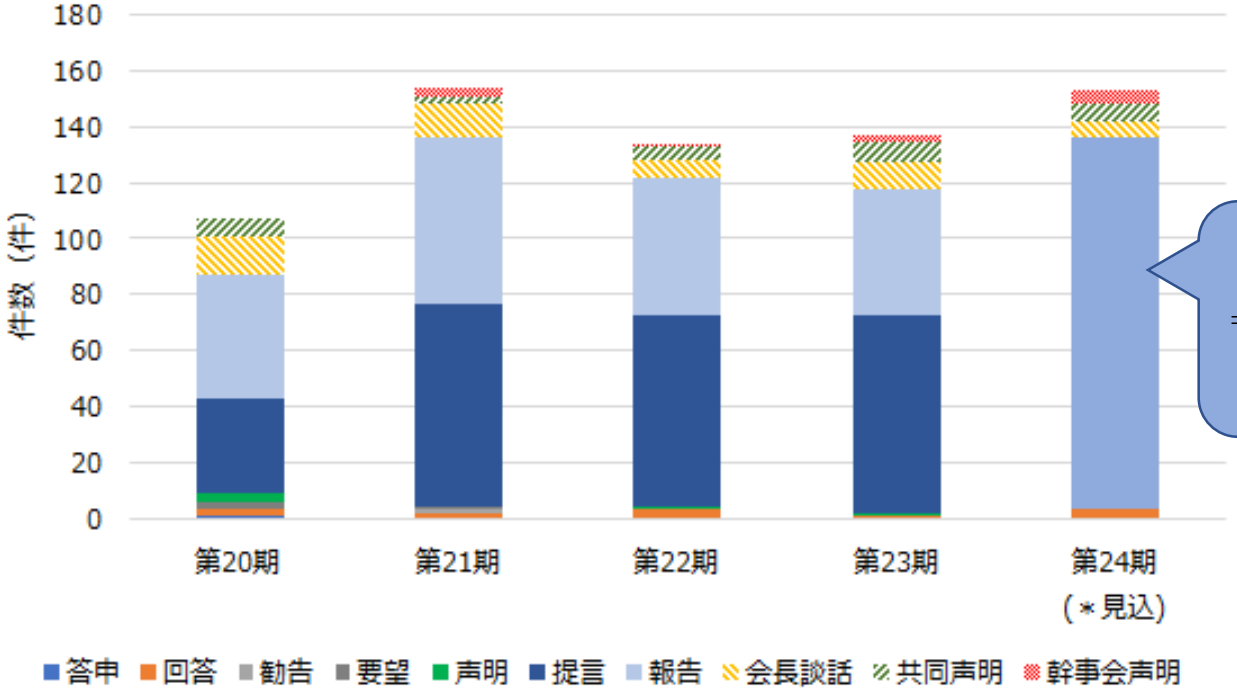
渡辺美代子

内容　１．提言・報告・声明・回答
２．「未来からの問い」
３．公開シンポジウム・学術フォーラム・サイエンスカフェ
４．広報－ホームページ
５．地方学術会議
６．残り3ヶ月の課題

提言・報告・幹事会声明等の推移

今期、提言と報告は従来より多くなる見込みだったが、縮小の可能性大
声明はなかったものの、幹事会声明は従来より多く５件

期	答申	回答	勧告	要望	声明	提言	報告	会長談話	共同声明	幹事会声明	合計
第20期	1	2	0	3	3	34	44	14	6	0	107
第21期	0	2	1	1	0	73	59	12	3	3	154
第22期	0	3	0	0	1	69	49	6	5	1	134
第23期	0	1	0	0	1	71	45	9	8	2	137
第24期（＊見込）	0	3	0	0	0	133 ＊		6	6	5	153



提言＋報告：
133件の見込み
⇒委員会・分科会
開催中止で縮小
の可能性あり

今期の数値：
提言＋報告のみ見込み
他は6月までの実績

直近9ヶ月に公表された幹事会声明・提言・報告

直近9ヶ月に公表された幹事会声明は３件、提言と報告は現在幹事会で審議中

幹事会声明

１．研究者の「働き方改革」と自由な研究時間確保の両立についての日本学術会議幹事会声明　2019年11月7日
２．科学技術基本法改正に関する日本学術会議幹事会声明　2020年1月28日
３．新型コロナウイルス感染症対策に関するみなさまへのお願いと、今後の日本学術会議の対応　2020年3月6日

提言

1. 第６期科学技術基本計画に向けての提言（学術体制分科会）
2. 持続可能な生命科学のデータ基盤の整備に向けて（バイオインフォマティクス分科会）
3. 歴史的思考力を育てる大学入試のあり方について（中高大歴史教育に関する分科会）
4. 専攻医募集シーリングによる研究力低下に関する緊急提言（臨床医学委員会）
5. 第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（研究計画・研究資金検討分科会）
6. 口腔疾患の予防・治療・保健教育の場を喫煙防止・禁煙支援に活用すべきである（脱タバコ社会の実現分科会）
7. ゲノム編集技術のヒト胚等への臨床応用に対する法規制のあり方について（ゲノム編集技術に関する分科会）
8. マイクロプラスチックによる水環境汚染の生態・健康影響研究の必要性とプラスチックのガバナンス（環境リスク分科会）
9. アディクション問題克服に向けた学術活動のあり方に関する提言（アディクション分科会、脳とこころ分科会、神経科学分科会）
10. アフリカ豚熱対策に関する緊急提言（医療・健康リスク情報発信分科会、食の安全分科会）
11. 長期の温室効果ガス大幅排出削減に向けたイノベーションの加速（エネルギーと科学技術に関する分科会）
12. 災害が激化する時代に地域社会の脆弱化をどう防ぐか（地球・人間圏分科会及びIRDR分科会）
13. オープンサイエンスの深化と推進に向けて(オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会）
14. 日本の停滞を打破し新産業創出を促す社会基盤と研究強化～応用物理からの提言～(未来社会と応用物理分科会)
15. パワーレザー技術と高エネルギー密度科学の量子的飛躍と産業創成(エネルギーと科学技術に関する分科会)
16. 低平地等の水災害激甚化に対応した適応策推進上の重要課題（気候変動と国土分科会）
17 科学的エビデンスを主体としたスポーツの在り方（科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会）
18. 地球温暖化対策としての建築分野での木材利用の促進（林学分科会）
19. 初等中等教育および生涯教育における地球教育の重要性（地球惑星科学人材育成分科会）
20. 長寿社会における脱炭素健康住宅への道筋(長寿・低炭素化分科会)
21. 原子力安全規制の課題とあるべき姿（原子力安全に関する分科会）
22. 高校国語教育の改善に向けて（古典文化と言語分科会）

報告

1. 地球惑星科学分野における科学・夢ロードマップ2020
（議地球惑星科学委員会、地球惑星科学企画分科会、地球・惑星圏分科会）
2. 理工学分野におけるジェンダーバランスの現状と課題
（理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）
3. 道徳科において「考え、議論する」教育を推進するために
（哲学・倫理・宗教教育分科会）

第２４期審議依頼・回答

今期は３件の審議依頼を受け、2020年６月にはスポーツ庁長官に回答と提言をセットで手交

国際リニアコライダー(ILC)計画の見直し案に関する検討委員会（家泰弘委員長）

- 文部科学省研究振興局長から2018年7月20日に審議依頼
- 11回の委員会、11回の分科会で審議
- 2018年12月19日に回答

  現状で提示されている計画内容や準備状況から判断して、本計画を日本に誘致することを日本学術会議として支持するには至らない

人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会（鷲谷いづみ委員長）

- 環境省自然環境局長より2018年6月14日に審議依頼
- ６回の委員会で審議
- 2019年8月1日に回答

  統合管理のための省庁間施策連携と基礎自治体の専門組織力の強化、及び市民に開かれた学術研究のしくみ等が必要

科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会（渡辺美代子委員長）

- スポーツ庁長官より2018年11月15日に審議依頼
- 12回の委員会で審議、2回の学術フォーラム・公開シンポジウムで意見交換
- 2020年6月18日に回答（＋提言）手交式･記者会見･学術フォーラム同時開催

回答の内容：

①スポーツの個人と社会全体への便益のために、個々人を尊重した画一的でない実践促進が必要
②経験主義から科学的エビデンス主体への移行が必要、その際倫理面の配慮が不可欠
③「身体活動」を超えた新たな価値の検討が必要、eスポーツの動向注視と依存症対策も必要
④証拠に基づく政策立案のために、エビデンスの定義と整備、関係省庁等と連携する体制が必要

提言（審議依頼の内容を超えた部分）の内容：

①国立スポーツ科学センターにデータを一元化し、関係者で共有する仕組みが必要
②スポーツ庁は時代変化に着目し、人生を通して得られる価値に着目、倫理問題や引退後の精神障害等考慮して政策決定が必要
③文部科学省は多様な人々の多様なスポーツ経験を支え、科学的エビデンスに基づく環境作りと教育体制整備が必要
④スポーツ庁は、スポーツにおける暴力を科学的エビデンスに基づく指導方法の開発と活用により削減することが必要

「未来からの問い」

本編に加え、特設ホームページで内容紹介（中止学術フォーラムの代替）とコロナ後の世界の対談を掲載

「未来からの問い」

本編内容：総論
各論
はじめに
第1章　多様性と包摂性のある社会へ―公正と共生の実現
第2章　持続発展的な社会と多様性
第3章　文化と持続可能な発展
第4章　医療の未来社会
第5章　知識社会と情報
第6章　国土の利用と資源管理
第7章　エネルギー・環境の統合的問題
第8章　日本の学術が世界の学術に果たす役割
第9章　日本の学術の展望

これまでと今後の予定

2018年11月～	18回の委員会で審議（＋審議予定）
2019年4-5月	総論試案への会員からの意見募集
2019年10月	総会時部会で議論
2020年4月	特設ページで内容紹介 一般からの意見募集
2020年6-7月	会員に案を送付し意見受付
2020年9月	製本完成、配布・販売

特設ホームページ１
「未来からの問い」内容紹介
http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/tenbou2020/mirai-top.html

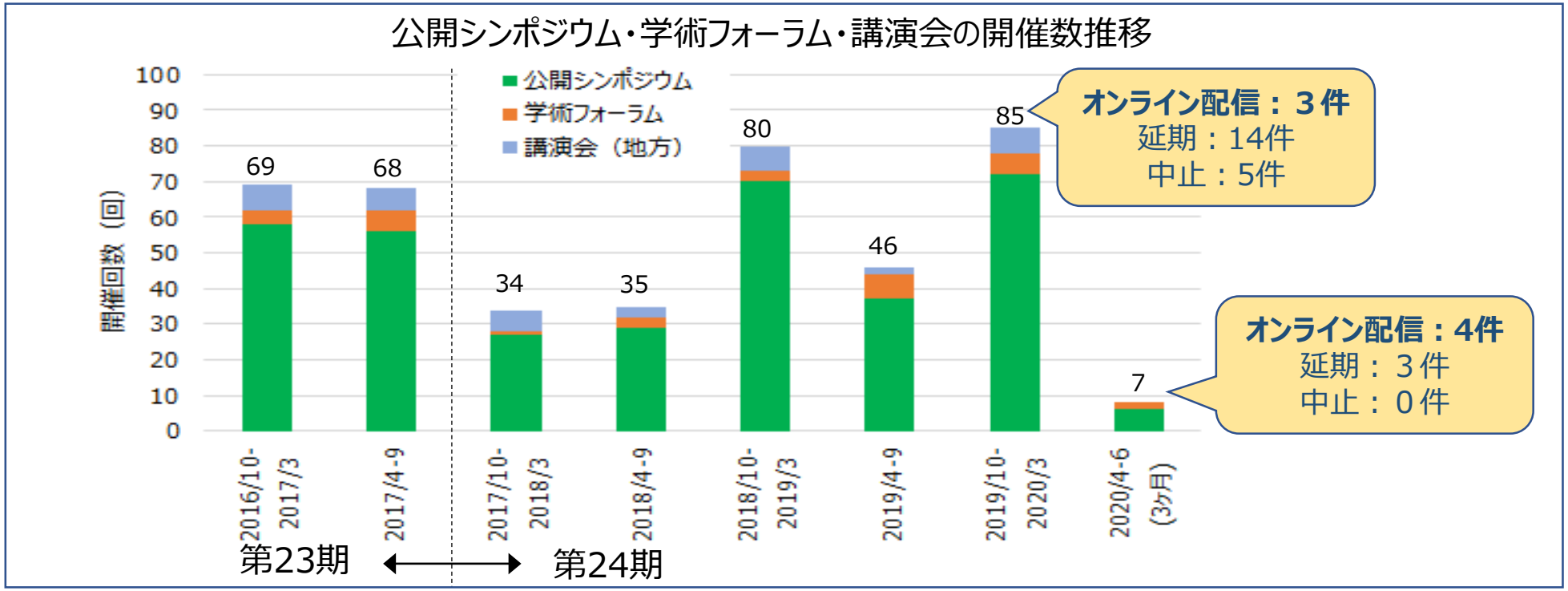
概要説明
トピック１　持続可能な社会の実現に向けて
トピック２　AIと生命科学がもたらす
ユートピアとディストピア
トピック３　環境・エネルギー・災害
各界からのメッセージ
産業界/若手アカデミー/大学学部生/高校生

特設ホームページ２
公開対談「新型コロナウイルス後の世界」
http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/tenbou2020/after-corona.html

会長・副会長と様々な立場の有識者等との対談から
新型コロナウイルス後の未来を考える

公開シンポジウム・学術フォーラム・講演会・サイエンスカフェ

公開シンポジウムや学術フォーラム等は、コロナ感染の影響で大幅に減少

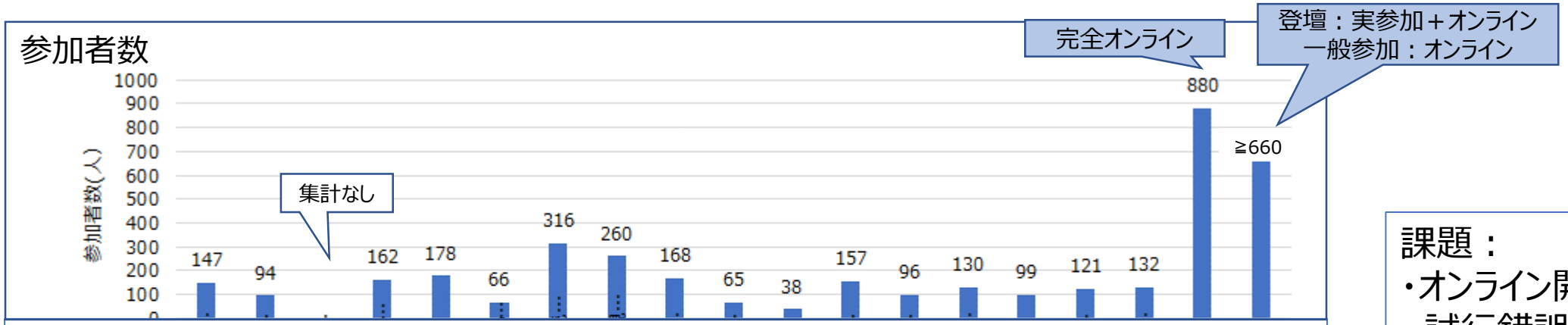


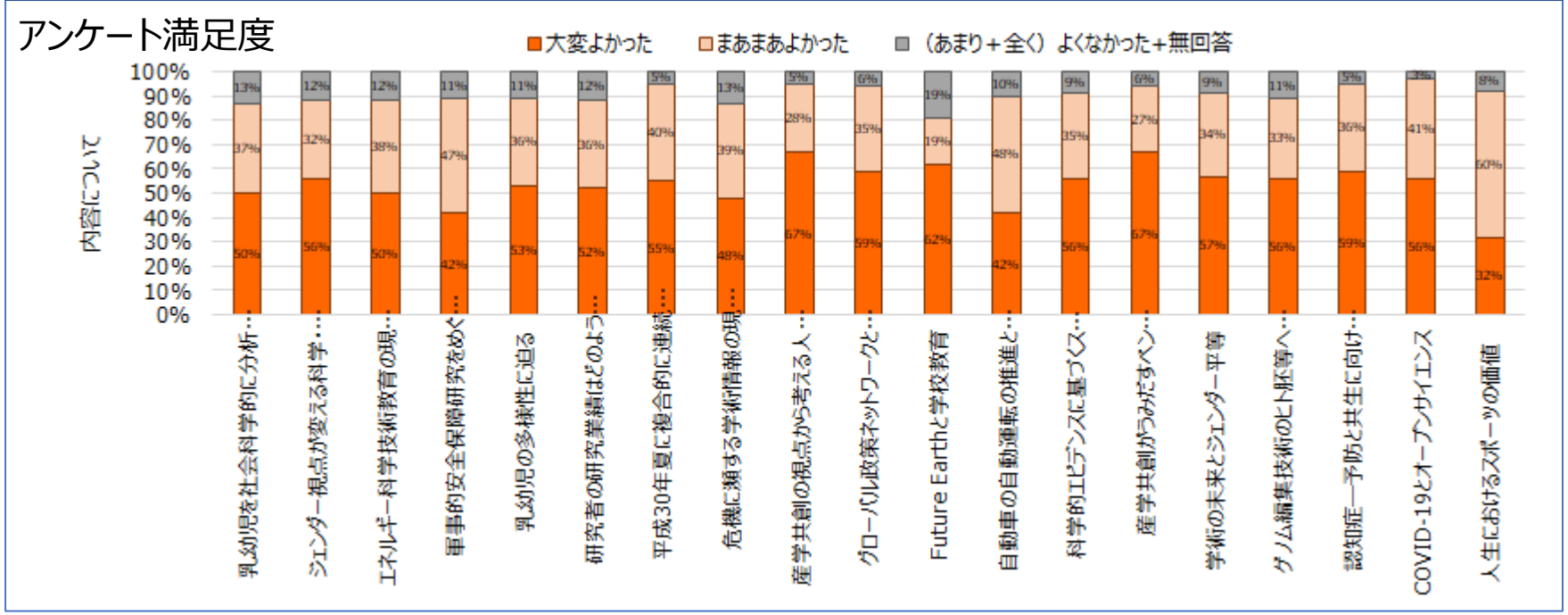
サイエンスカフェ（直近9ヶ月）

	開催日	開催地	場所	テーマ	講師	参加者数
1	2019.11.21	大阪	Shot Bar 周太郎	妊娠出産にまつわるサイエンス	田畑菜峰	14
2	2019.11.22	東京	文部科学省情報ひろば	水と水循環を考えよう	登坂博行	11
3	2019.11.30	東京	日省堂神保町本店	味を感じる仕組み・おいしさの科学	石丸喜朗	17
4	2019.12.19	広島	Social Book Cafeハチドリ舎	デザイナー・ベビーを考える～親はどこまで子どものことを決めてよいのか～	粥川準二	13
5	2020.1.15	大阪	Shot Bar 周太郎	私たちが認識する世界を変化させるバーチャル・リアリティ	中野萌士	5
6	2020.2.21	札幌	三省堂書店札幌店	大地の呼吸に耳をすます ～熱帯泥炭林のCO2循環を測る～	平野高司	28
7	2020.2.28	東京	文部科学省情報ひろば	続！気候変動の科学×哲学 『気候正義』って何？	宇佐美誠	延期
8	2020.2.29	鹿児島	フローリスト NOGLE	土器に残った米つぶから古代人の生活が見える 考古学の最前線	大西智和	6

第24期学術フォーラム参加人数・満足度

2020年3月以降オンライン開催で参加者増加、一般参加者アンケートで満足度維持を確認





課題：
- オンライン開催の多様な試行錯誤
- 来期に向け、オンライン開催の定常化
- 意見交換の仕組み検討

ホームページの改良

HP改良実施、一般公開イベントは常に閲覧が多く、SDGsも閲覧数増加、課題は閲覧者数が多いおもしろ情報館の内容充実

改良後の日本学術会議HP（スマホ向けも対応）

実施済み（2019年10月－2020年3月）

◆トップページの改良（スマホ対応）
◆上層部のページ改良
◆「SDGsと学術会議」欄の提言等を掲載定常化（**日英**、希望のみ）
◆Twitterにて提言・報告・学術フォーラム・公開シンポジウムをお知らせ

HP閲覧（者）数（2020年1月1日～6月22日）

閲覧数順

順番	ページタイトル	閲覧者数	閲覧数	一人あたり閲覧数
1	トップページ	154,037	232,815	1.5
2	一般公開イベント	48,974	76,255	1.6
3	SDGsから見た日本学術会議 ―社会と学術の関係を構築する―	11,222	71,632	6.4
4	若手アカデミー	11,431	58,389	5.1
5	委員会の活動	18,861	55,189	2.9
6	日本学術会議協力学術研究団体	32,063	48,683	1.5
7	サイトマップ	10,701	44,963	4.2
8	おもしろ情報館　学習と記憶 3．脳はこうして記憶する2	32,084	43,777	1.4
9	会員・連携会員等	18,603	43,220	2.3
10	提言・報告等	22,544	39,348	1.7

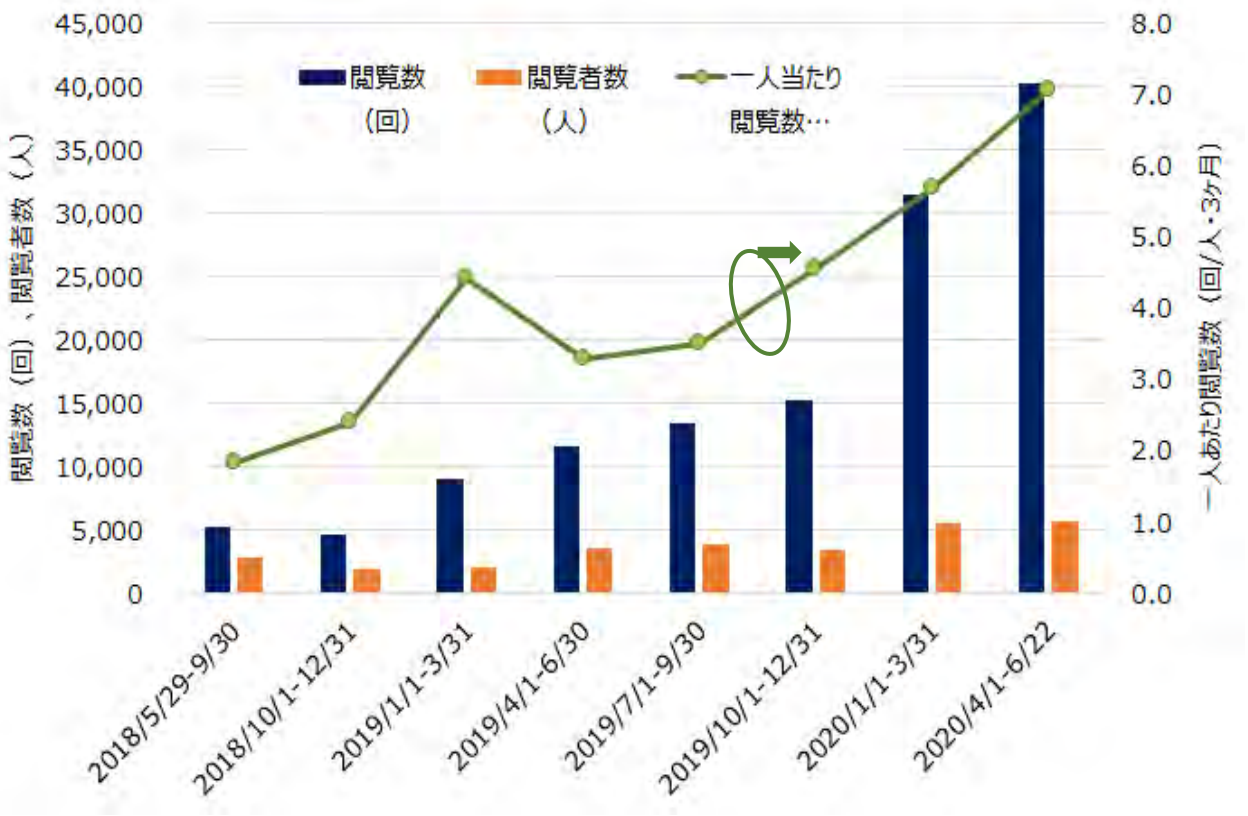
閲覧者数順

順番	ページタイトル	閲覧者数	閲覧数	一人あたり閲覧数
1	トップページ	154,037	232,815	1.5
2	一般公開イベント	48,974	76,255	1.6
3	おもしろ情報館　学習と記憶 3．脳はこうして記憶する2	32,084	43,777	1.4
4	日本学術会議協力学術研究団体	32,063	48,683	1.5
5	提言・報告等	22,544	39,348	1.7
6	委員会の活動	18,861	55,189	2.9
7	会員・連携会員等	18,603	43,220	2.3
8	若手アカデミー	11,431	58,389	5.1
9	SDGsから見た日本学術会議 ―社会と学術の関係を構築する―	11,222	71,632	6.4
10	サイトマップ	10,701	44,963	4.2

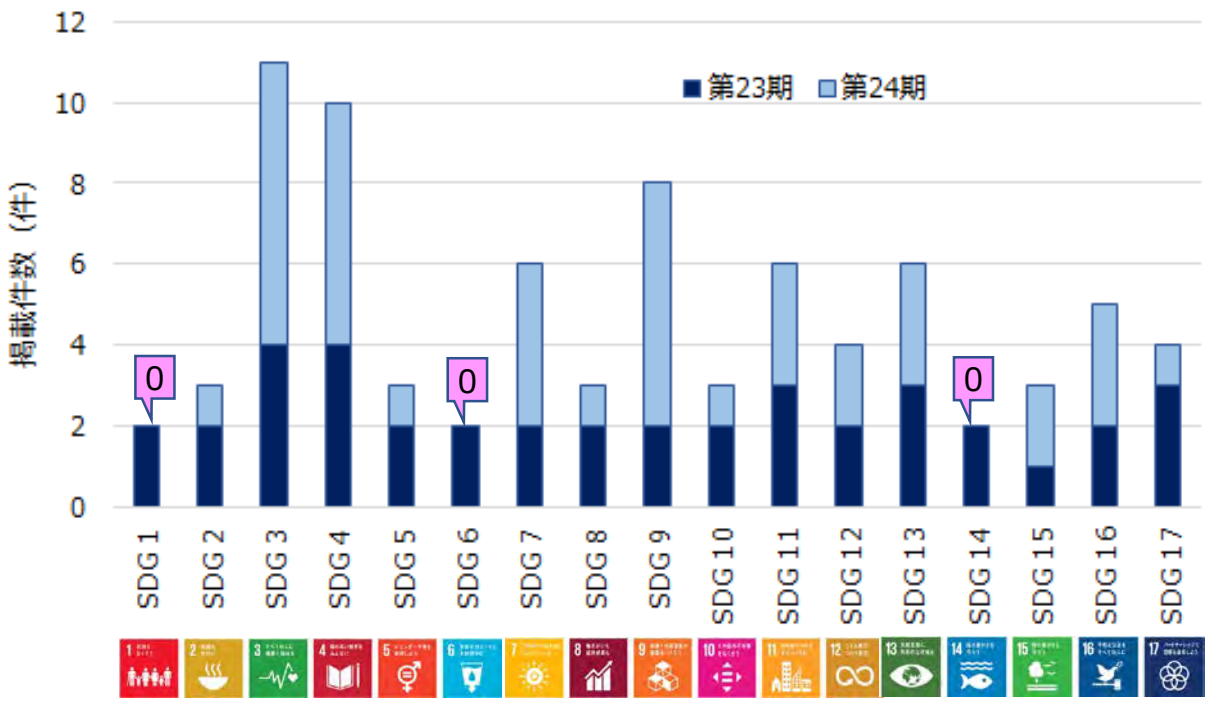
ホームページのSDGsコーナー

閲覧数は単調増加、今期は貧困（SDG1）、水（SDG6）と海（SDG14）が皆無

SDGsコーナーの閲覧(者)数



SDGsコーナー掲載提言・報告件数



第24期地方学術会議

第24期３回の試行によりこれからの仕組みはできたが、コロナ感染状況下での開催が課題

	開催日	開催地	会場	テーマ	参加者
1	2018.12.22	京都	京都学・歴彩館	伝統文化と科学・学術の新たな出会い	350人
2	2019.2.14	北海道	ANAクラウンプラザホテル札幌	Society 5.0で北海道が変わる	150人
3	2019.6.28	富山	富山大学	富山から発信する学術研究とSDGs対応	350人
4	2020.3.21	山口	山口大学	AI戦略の地方への展開 ー大学におけるデータサイエンス教育と地域連携ー	延期

これからの地方学術会議（地区会議との比較）

	地方学術会議	地区会議
実施主体	各地方の会員、連携会員の所属機関など 地区会議との連携や他の都道府県との連携も可能	7地区で実施 （北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄）
目的	日本学術会議を地方で実施 より一層強力に地方における学術振興を促進	地区内の科学者等の日本学術会議に対する意見、要望を汲み上げて日本学術会議との意思疎通を図り、地域社会の学術の振興に寄与
活動内容	各地方において幹事会懇談会を開催、幹事会構成員と地区の会員・連携会員との懇談、地域のリーダーとの意見交換を実施、講演会など学術会議の企画を付随させることも可能	地域の求める情報に即したテーマを設定した学術講演会の開催や科学者との懇談会、地区会議ニュースの発行など
回数	原則年1回	各地区において1-2回/年
審議などの母体	地方学術会議委員会 （日本学術会議幹事会附置委員会）	地区会議運営協議会

残り3ヶ月の課題

１．提言・報告の公表

・今期提案される提言・報告全件の今期公開

・内容の充実と提言先への周知

２．「未来からの問い」の完成と公開

３．学術フォーラム・公開シンポジウム等のオンライン開催

・オンライン開催仕組みの試行錯誤

・一般参加者との意見交換の仕組み検討

４．ホームページの閲覧数を考慮した内容充実

５．地方学術会議開催の定常化に向けた体制整備

６．年次報告書の完成（現在執筆中）

日本学術会議
国際活動報告

第180回総会　2020年7月9日

第24期 国際活動担当副会長　武内　和彦

第24期の活動方針

1. 個別分野の国際学術交流を基盤としつつ、分野横断的な国際活動の展開とネットワークの構築
   - ✓ 全学術分野を擁する日本学術会議の優位性を発揮

2. SDGsの推進を始め、グローバルな課題解決に向けた加入国際学術団体や多様な主体との協働
   - ✓ 国際学術会議（ISC）への積極的参画
   - ✓ IAP等加入国際学術団体に対するより一層の貢献
   - ✓ Future Earthの国際的展開への貢献

3. アジア地域におけるリーダーシップの発揮
   - ✓ アジア学術会議(SCA)の運営・開催等

国際活動の全体像

国際学術団体への加盟・貢献

- 国際学術会議(ISC)※ International Science Council
- InterAcademy Partnership (IAP)
  - ・IAP for Policy(旧IAP for Research)
  - ・IAP for Science・ IAP for Health
- 分野別・地域別国際学術団体

代表派遣

- 各アカデミー間学術交流
- Gサイエンス学術会議
- サイエンス20(S20)

交流

事務局

- Future Earth(FE)国際本部事務局運営
- アジア学術会議(SCA)の運営・開催

主催・共同主催

国際会議・シンポジウムの開催

※国際科学会議(International Council for Science: ICSU)及び国際社会科学評議会(International Social Science Council: ISSC)の統合により、2018年7月発足

①各国アカデミーとの連携・交流

Gサイエンス学術会議(2020) への対応

G7参加各国アカデミーから各国政府首脳に対する科学的な政策提言

- ✓ 全米科学アカデミー(NAS)が主催
- ✓ 国際活動担当副会長及び各テーマの専門家が参画
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、ワシントンDCでの開催は見送り、メールで共同声明を取りまとめ
- ✓ 新型コロナウイルス感染症に関するテーマを急遽追加

✓ Gサイエンス学術会議(2020)共同声明の4テーマ

(1) Basic Research（基礎研究の重要性）

－中村征樹連携会員が参加

－イノベーションの素地となる基礎科学の重要性を改めて指摘し、政府による研究財源や教育の充実強化と学際的研究の支援等を提言

(2) Digital Health and the Learning Health System（健康推進への情報技術の活用：デジタルヘルスとラーニングヘルスシステム）

－岩崎渉連携会員が参加

－保健医療分野におけるデータ管理や研究分析等の更なる促進のため、データの相互運用性や信頼性の担保等を提言

(3) Global Insect Declines and the Potential Erosion of Vital Ecosystem Services
（地球規模での昆虫減少による生態系サービスの消失）

－森 章連携会員が参加

－地球環境と人間社会にとって重要な昆虫について、生息地の特定や保護、人間の活動についての見直し等を提言

(4) The Critical Need for International Cooperation during COVID-19 Pandemic（新型コロナウイルス感染症の世界的流行に係る国際協力の緊急的必要性について）

－秋葉澄伯第二部会員が参加

－新型コロナウイルスによる感染症の流行を抑止するため、国際的な研究成果の共有や共同研究等、国際協力の必要性を提言

Gサイエンス学術会議(2020)共同声明
公表後の動き

- ✓ 4月8日に「新型コロナウイルス感染症の世界的流行に係る国際協力の緊急的必要性について」の共同声明を先行して公表
- ✓ 5月28日に従来の他3テーマ（基礎研究、デジタルヘルス、昆虫減少）を公表
- ✓ 竹本直一科学技術担当大臣が、記者会見にて共同声明の公表を報告
- ✓ 科学新聞（6月5日付）の一面トップに掲載

②各国アカデミーとの連携・交流

IAP（InterAcademy Partnership）はCOVID-19への対応の1つとしてコミュニケを公表（2020年3月27日）

- ✓ タイトル 「新型コロナウイルス感染症の世界的流行に係る地球規模の結束に向けたインターアカデミー・パートナーシップ（IAP）からの要請」
- ✓ IAP執行委員会（IAP全体の会長・IAP-Science, Policy, Healthそれぞれの共同議長、全7名）により取りまとめ
- ✓ 世界中の国際協調の重要性を強調・公衆衛生の枠組みや医療制度が脆弱な国々への支援を宣言
- ✓ 日本学術会議HPに原文・和訳を掲載

③各国アカデミーとの連携・交流

COVID-19に関する国際情報発信

- ✓ 日本学術会議におけるCOVID-19への対応状況について、日本学術会議HP、国際学術会議（ISC）及びインターアカデミー・パートナシップ（IAP）のポータルサイト等を通じた英語による情報発信

- ✓ 各国アカデミー（ドイツ、英国、イタリア等）との間でCOVID-19に関する情報及び意見交換

- ✓ インターアカデミー・パートナーシップ（IAP）からのCOVID-19対応に関するAd-hoc Advisory Committeeへの委員推薦対応や各国の対応状況に関するアンケート調査等への協力

④各国アカデミーとの連携・交流

サイエンス20（S20）2020（2020年9月）への対応

S20参加各国の政府首脳に対する科学的な政策提言

- ✓ サウジアラビア（ジェッダ予定）で開催し、共同声明を取りまとめ
- ✓ 国際活動担当副会長及び複数のテーマ専門家の参画を予定
- ✓ 会議テーマ：Foresight: Science for Navigating Critical Transitions

（展望：重大な転換へと導くための科学）

1. Future of Health: Promoting wellbeing and expanding personalized healthcare
   （健康の未来：福利の促進と個人の健康管理の拡大）
2. Circular Economy: Holistic Solutions for our Environment
   （循環型経済：私たちの環境に対する総体的解決策）
3. Digital Revolution: Achieving Universal Connectivity and Smarter Communities
   （デジタル革命：ユニバーサルなつながりとよりスマートなコミュニティの実現）
4. Connecting the Dots: from Science to Action
   （点をつなげて：科学から行動へ）

日学からのS20対応者について

■ タスクフォース1：Future of Health
秋葉　澄伯　（第二部会員・弘前大学特任教授・鹿児島大学名誉教授）
郡山　千早　（特任連携会員・鹿児島大学大学院医歯学総合研究科疫学・予防医学教授）

■ タスクフォース2：Circular Economy
森口　祐一　（連携会員・国立環境研究所理事、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）

■ タスクフォース3：Digital Revolution
村山　泰啓　（連携会員・国立研究開発法人情報通信研究機構ソーシャルイノベーションユニット戦略的プログラムオフィス研究統括）

■ タスクフォース4：Connecting the Dots
新福　洋子　（特任連携会員・広島大学大学院医系科学研究科教授）

⑤各国アカデミーとの連携・交流

第14回 Academy of Science President's Meeting

- ✓ STSフォーラム（科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム）第18回年次総会の分野別会議として、日本学術会議が主催予定（2020年10月）
- ✓ 会議テーマ： Sustainable Recovery from Covid-19

（仮訳：新型コロナウィルスからの持続可能な復興）

（調整中）

- ✓ 今年度は、新型コロナウイルスの影響を受け、オンラインでの開催を検討中

⑥各国アカデミーとの連携・交流

- 米国の全米科学アカデミー（NAS：National Academy of Sciences）の下立ち上げられた国際組織「国際人権ネットワーク（IHRN：International Human Rights Network）」への対応

✓ IHRNから配布されるアクションアラートに対して、「国際委員会科学者に関する国際人権対応分科会」において嘆願書発出の要否を審議（24期審議件数：13件、うち調査継続:1件）

✓ 「国際人権ネットワークから通知されるアクション・アラート審査基準」を改正し「科学者等に関する国際的な人権問題の審査基準」を新基準として分科会決定

⑦国際学術会議の共同主催及び後援

- ✓ 共同主催国際会議の主催
  - 2020年度は7件の共同主催国際会議を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、「第29回人工知能国際会議」は2021年1月（予定）に延期、その他6件については中止となった
- ✓ 国際会議誘致・開催貢献賞（2019年度）の受賞
  - 共同主催した「2018年IEEEシステム・マン・サイバネティクス国際会議（2018年10月＠宮崎）」が、日本政府観光局から表彰された

2019年度国際会議誘致・開催貢献賞表彰式

⑧「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2020」の開催

1.テーマ 「グローバル時代の包摂を考える
ーCOVID-19 後の持続可能な社会ー」

2. 主　催　日本学術会議

3. 共催・後援　（調整中）

4. 日　程　2020年9月3日（木）、4日（金）

5. 開催方法　オンライン（日本学術会議HPで動画を公開予定）

6. 概　要　ダヤ・レディISC会長、エリサ・ライスISC副会長、マーティン・コリー名誉教授他が参加予定

⑨アジア学術会議(SCA)の運営

Science Council of Asia

- ✓ 日本学術会議が事務局を務め（事務局長は、澁澤栄第二部会員）、18か国・地域の32機関が加盟。毎年度、各国持ち回りで会議を開催
- ✓ 2019年は、12月3日～5日にミャンマー・ネピドー にて、第19回アジア学術会議を開催

参加者集合写真

- ✓ Research and Innovation for Sustainable Development in Asia（アジアにおける持続可能な開発のための研究とイノベーション）をテーマに、延べ10以上の国・地域から約220名が参加

基調講演を行う山極会長

✓ 会議の議論を踏まえた共同宣言の取りまとめ

【共同宣言の骨子】

(1)持続可能な開発を実現するための

アジアのパートナーシップの活性化

(2)経済成長のための技能開発を促進

握手を交わす山極会長とミャンマー教育大臣

(3)持続可能な開発のための天然資源の多様な活用

(4)社会経済的発展を通じての貧困緩和

✓ 次期会長として韓国のKim Dong Ki NAS会長が新役員に就任

✓ 次回第20回アジア学術会議は、中国の上海にて Material Innovation and Sustainable Societyをテーマに開催予定（2021年春頃開催予定）

⑩フューチャー・アースの国際的展開

日本学術会議は、5か国の国際本部事務局の一翼である日本ハブ事務局の推進役として機能

- ✓ **「フューチャー・アース地球大気化学国際協同研究計画（IGAC）科学運営委員会（SSC）」**（ 2019年10月、メキシコ）
  日本ハブ事務局長として、春日文子連携会員が参加し、日本学術会議は8名の外国人招へいを実施

- ✓ **「フューチャー・アース評議会年次会合2020」**（2020年3月）
  新型コロナウイルス感染症の影響で、リモートで開催し、国際活動担当副会長（日本ハブ代表）と、春日文子連携会員（日本ハブ事務局長）が参加

- ✓ **「フューチャー・アースサミット」**（2020年6月）
  オンラインで開催され、「グローバルリサーチプロジェクト（GRPs）」や「知の実践のネットワーク（KANs）」の活動などを報告

⑪加入国際学術団体等への貢献

- 国際学術会議（ISC）への参画

✓ ISC常設委員会「科学における自由と責任の委員会」（CFRS：Committee for Freedom and Responsibility in Science）の委員に選出された白波瀬佐和子連携会員が、第１回委員会に出席（2019年11月）

✓ 「ISCアジア・太平洋諮問会議」が2020年4月にオンライン開催され、日本学術会議からは澁澤栄第2部会員が出席

✓ ISC共催プロジェクト「都市環境の変化と健康委員会」（UHWC：Urban Health and Wellbeing Committee）の委員に中村桂子連携会員が選出された（任期2020年6月～）

- IAPへの参画
  - ✓ IAP for Policyへの参画
    - ・日本学術会議は理事アカデミーとして参画（任期 2017年～2020年）
    - ・2019年度の定款改正により任期延長（任期 ～2022年まで）
  - ✓ IAP for Policy Board Meetingへの参画
    - ・新型コロナウイルス感染の世界的流行拡大を受け、ビデオ会議形式で開催。国際活動担当副会長が出席（ 2020年4月8日、7月8日）

⑫代表派遣を通じた国際学術団体への貢献

- **代表派遣計画（2019年度）の実施結果**

✓ 2019年度は33会議に42人を派遣

（総会・理事会等19件、その他会議14件）

✓ 新型コロナウイルス感染症の影響で当初計画で予定していた3会議の派遣中止

- **代表派遣計画（2020年度）の実施状況**

✓ 2020年度は39件52人の派遣を決定

（総会・理事会等24件、その他会議15件）

✓ 新型コロナウイルス感染症の影響で、上半期に派遣予定だった21会議が、中止（3件）、延期（12件）、Web会議へ変更（6件）となった

第一部報告

第180回総会（2020年7月9日）

第一部役員
部長：町村敬志
副部長：橋本伸也
幹事：久留島典子
幹事：溝端佐登史

第一部の組織
分野別委員会（10）・分科会（78）

分野別委員会	分科会数（※1）
言語・文学委員会	4
哲学委員会	5
心理学・教育学委員会	10（1）
社会学委員会	12
史学委員会	10
地域研究委員会	11
法学委員会	8
政治学委員会	6
経済学委員会	8
経営学委員会	4（1）

※1（）内は他部が主たる担当委員会である合同分科会（内数）。

第一部の運営体制

- 部会：年3回
- 役員会：随時
- 拡大役員会（役員＋各分野別委員会委員長）
- 第一部が直接統括する分科会
  ① 国際協力分科会
  ② 科学と社会のあり方を再構築する分科会
  ③ 人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会
  ④ 総合ジェンダー分科会
  ⑤ 人文・社会科学基礎データ分科会（2019年新設）
- 2019年10月の部会時に役員交代

部長　　町村敬志
副部長　橋本伸也
幹事　　久留島典子 ・ 溝端佐登史

第24期の活動方針

1. 人文・社会科学の振興
   - 提言「学術の総合的発展をめざして―人文・社会科学からの提言―」（2017年6月1日）：①教育の質向上と若者の未来を見据えた高等教育政策の改善、②研究の質向上の視点からの評価指標の再構築、③大学予算と研究資金のあり方の見直し、④若手研究者と女性研究者の支援の本格化、⑤総合的学術政策の構築　⇒実現の道筋を探る
2. 社会への発信（責任ある意思の表出）
   - 日本の科学者コミュニティの代表機関として、日本の社会や学術がかかえる重要課題について、意思を形成し社会に発信する
3. 人文・社会科学分野における日本の学術の国際発信の強化
4. 人文・社会科学をはじめとする学術における男女共同参画の実現

前回総会以後の活動①
提言・報告等

【2019年10月以降、公表分】

- 提言

史学委員会 中高大歴史教育に関する分科会

「歴史的思考力を育てる大学入試のあり方について」（2019年11月22日公表）

経営学委員会・総合工学委員会合同サービス学分科会

「サステナブルで個人が主体的に活躍できる社会を構築するサービス学」（2020年7月7日公表予定）

- 報告

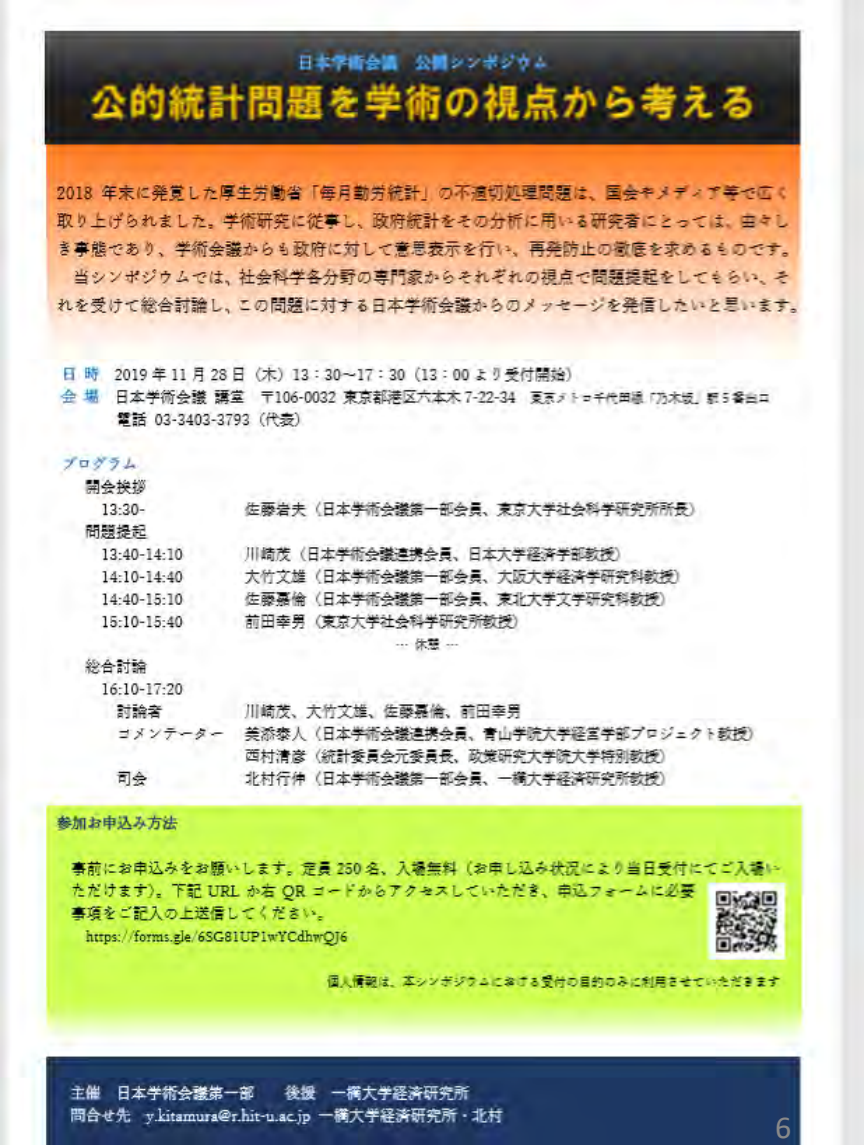
哲学委員会哲学・倫理・宗教教育分科会

「道徳科において「考え、議論する」教育を推進するために」（2020年6月9日公表）

前回総会以後の活動②
公開シンポジウム等の実施

第一部主催公開シンポジウム「公的統計問題を学術の視点から考える」（2019年11月28日）

- 第一部附置委員会・分野別委員会関係で公開シンポジウム等を計21企画（2019年10月～）
- 新型コロナウィルス感染症に関わる安全対策のため、うち計8は延期ないし中止



日本学術会議　公開シンポジウム

公的統計問題を学術の視点から考える

2018 年末に発覚した厚生労働省「毎月勤労統計」の不適切処理問題は、国会やメディア等で広く取り上げられました。学術研究に従事し、政府統計をその分析に用いる研究者にとっては、由々しき事態であり、学術会議からも政府に対して意思表示を行い、再発防止の徹底を求めるものです。

当シンポジウムでは、社会科学各分野の専門家からそれぞれの視点で問題提起をしてもらい、それを受けて総合討論し、この問題に対する日本学術会議からのメッセージを発信したいと思います。

日 時　2019 年 11 月 28 日（木）13：30～17：30（13：00 より受付開始）
会 場　日本学術会議 講堂　〒106-0032 東京都港区六本木 7-22-34　東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5 番出口
電話 03-3403-3793（代表）

プログラム

開会挨拶
13:30-　佐藤岩夫（日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所所長）

問題提起
13:40-14:10　川崎茂（日本学術会議連携会員、日本大学経済学部教授）
14:10-14:40　大竹文雄（日本学術会議第一部会員、大阪大学経済学研究科教授）
14:40-15:10　佐藤嘉倫（日本学術会議第一部会員、東北大学文学研究科教授）
15:10-15:40　前田幸男（東京大学社会科学研究所教授）

… 休憩 …

総合討論
16:10-17:20
討論者　川崎茂、大竹文雄、佐藤嘉倫、前田幸男
コメンテーター　美添泰人（日本学術会議連携会員、青山学院大学経営学部プロジェクト教授）
西村清彦（統計委員会元委員長、政策研究大学院大学特別教授）
司会　北村行伸（日本学術会議第一部会員、一橋大学経済研究所教授）

参加お申込み方法

事前にお申込みをお願いします。定員 250 名、入場無料（お申し込み状況により当日受付にてご入場いただけます）。下記 URL か右 QR コードからアクセスしていただき、申込フォームに必要事項をご記入の上送信してください。
https://forms.gle/6SG81UP1wYCdhwQj6

個人情報は、本シンポジウムにおける受付の目的のみに利用させていただきます

主催　日本学術会議第一部　　後援　一橋大学経済研究所
問合せ先　y.kitamura@r.hit-u.ac.jp 一橋大学経済研究所・北村

前回総会以後の活動③
人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会

1. 「研究評価」のありかたをめぐる現状把握および理論的検討
2. 科学技術基本法の改正検討に関わり、人文・社会科学の役割についての検討を継続した。
   - とくにイノベーションと人文・社会科学のあり方をめぐって、その課題と今後の対応について、意見交換を行った。

前回総会以後の活動④
総合ジェンダー分科会

1．人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences – GEAHSS）と共同で実施された第1回「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」（2018年6月～11月）について、報告書が完成（2020年1月）。

（GEAHSS（ギース）のウェブサイトからご覧ください）

https://geahssoffice.wixsite.com/geahss/blank-4

人文社会科学系学協会の連携としては初めての調査。結果から文系でも女性の本務教員が少ないことが判明。

2．公開シンポジウム「どうする？ジェンダー平等　人文社会科学系学会の未来」を開催（2020/2/18）。

前回総会以後の活動⑤
人文・社会科学基礎データ分科会の設置

- 背景：提言「学術の総合的発展をめざして：人文・社会科学からの提言」：　総合的学術政策の構築に向けた具体策として「学術白書(仮称）」作成の必要性を指摘。
- 分科会の任務：日本の人文・社会科学分野に関する基礎的データの収集・整理
- データ集作成に向けた情報収集と枠組み検討作業を実施
  - 日本の人文・社会科学の現況の把握
  - 人文・社会科学分野における各種の提言等の基礎資料（エビデンス）収集
  - 人文・社会科学分野の国際比較のための基礎的データ
  - 大学評価機関等におけるデータ収集状況の確認
- 継続的なデータ収集・公開についての提案をとりまとめ中

前回総会以後の活動⑥
科学技術基本法改正に関わる動きへの対応

- 科学技術基本法改正に向けての動きが2019年度に本格化した。日本学術会議はかねてより、同法第１条が「科学技術（人文科学のみに係るものを除く。）」と規定するのに対して、この除外規定を削除して、人文・社会科学を科学技術基本法に基づく施策の対象とし、人文・社会科学を含む科学・技術の全体について長期的かつ総合的な政策を展開することの必要性を指摘してきた。

- この点を踏まえ、法改正作業が、基礎研究の重視、大学の自主性尊重、「学問の自由」等の観点からみて、より望ましい方向へ進むように、関係機関による意見聴取の機会に学術会議として応じてきた。
- 第一部としても、部会や人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会などの場を通じて、意見交換と課題の確認を行った。
- あわせて日本学術会議として、「科学技術基本法改正に関する日本学術会議幹事会声明」を、2020年 1月28日に公表した。
- 同法改正は2020年6月に国会で承認され、上記の除外規定は削除された。附帯決議も踏まえ、科学技術政策がイノベーション創出に偏重することのないよう、その運用について注視をしていきたい。

前回総会以後の活動⑦
ニューズレターによる情報共有

- 第一部ニューズレター
  - 第20期以降、概ね年間2～3号程度を発行
  - 第24期第6号（2019年11月）
  - 学術会議HP第一部のページにPDFで公開

第24期第6号
2019/11

Newsletter

SCIENCE COUNCIL OF JAPAN SECTION I

CONTENTS

■ 第一部役員交代挨拶

部長退任のご挨拶	第一部前部長　佐藤　岩夫	(1)
部長就任にあたって	第一部部長　町村　敬志	(3)
副部長就任にあたって	第一部副部長　橋本　伸也	(4)
幹事就任にあたって	第一部幹事　久留島典子	(6)
幹事就任にあたって	第一部幹事　[illegible]	(7)

■ 科学技術基本法改正関連資料

掲載にあたって	(1)
科学技術基本法改正関連関連資料（再改訂版）	(9)